

町立奥出雲病院 中期経営計画 点検・評価 報告 (平成24年度)

国から示されたガイドラインに従い、平成21年3月、当院では『町立奥出雲病院改革プラン』を策定し、それに基づいた経営を行ってきた。また、改革プランの実施状況の点検・評価については当院の最高決定会議である経営会議にて検討し、その結果は病院ホームページにて公表してきたところである。改革プランの「経営の効率化」についての改善目標期限である3年を経過したこと、及び病院長が交代したことから、平成24年10月、経営指標について再考した。この度、平成24年度決算が認定されたことを受け24年度事業について点検・評価をしましたので報告いたします。

1. 事業報告

(1) 入院外来患者数の動向

外来患者数は1日平均159.0人、年間延患者数38,943人で前年度比較142人の減少（対前年度比99.6%）となりました。入院患者数は1日平均126.9人（病床利用率80.3%）、年間延患者数46,331人で前年度比較1,967人の増加（同104.4%）となりました。

入院患者数前年比増は、新規採用や育休復帰等により医療スタッフが揃いつつあり、診療体制及び看護体制が整ってきたことが大きな要因であると思われます。診療圏域の人口減少・年齢構成の変化の影響等により大きな診療稼働アップは困難と考えますが、各診療科の稼働状況を注視しつつ、利用者である患者様の利便向上に知恵をしばりながら各種取り組みを進めていきたいと考えます。

(2) 収益的収支

本年度の総事業収益は1,905,742千円で前年度比較60,623千円の増収（対前年度比103.3%）となりました。収益構成は、医業収益が1,568,074千円（同102.5%）、医業外収益は337,668千円（同107.3%）です。医業収益の伸びは、入院患者数の増による入院収益前年度比較55,751千円の増と、外来化学療法など濃厚治療の実施等による外来収益前年度比較5,956千円の増が主な要因です。一般会計繰出金総額は409,504千円で地域医療確保対策にかかる繰出増などの要因にて、前年度より5,277千円の増額となっております。

総事業費用は1,997,511千円で、前年度比較113,040千円増加（対前年度比106.0%）いたしました。内訳は医業費用が1,894,278千円（同108.2%）、医業外費用が103,234千円（同88.6%）です。医業費用の主なものは、給与費が1,173,442千円、材料費が228,231千円、経費が252,893千円、減価償却費が234,083千円でした。

以上より、医業収益から医業費用を差し引いた営業損失は326,204千円で、前年度比較105,711千円の増加（対前年度比147.9%）。経常損失及び純損失は91,769千円となりました。

(3) 資本的収支

資本的収入は、政府企業債などの起債による借入資本金96,500千円、建設改良に対する県補助金12,220千円、合計108,720千円です。資本的支出は、建設改良費111,910千円、企業債償還元金が246,965千円、退職給与金20,451千円、合計379,326千円を支出いたしました。また資本的収入額が支出額に不足する額270,606千円は、損益勘定留保資金で補填しました。

(4) 新病院長の就任

平成24年10月1日付けにて、前 春日院長（現 名誉院長）に代わり、深澤院長が新たに就任されました。就任にあたり、「縁もゆかりもなかった奥出雲ですが、この自然豊かな土地で働くことが出来ることはまことに幸せなことだと思っている。」と話され、当院が町のサロンとして、地域の皆様に愛され親しまれる病院づくりを全力で目指すとされました。また、長年の懸案である医師をはじめとする医療従事者の確保については、各方面への働きかけを先頭に立って実施されると同時に、現有のスタッフでの効率的な業務遂行を実現するため、定期的な会議の場の設定を直ちに行われ、病院の全職員が効率的かつ献身的に一人ひとりの患者様のため邁進できる環境構築に努めておられます。春日名誉院長には、約10年の長きにわたり院長として当院を牽引していただきました。この間、救急医療体制の整備や在宅訪問診療の充実、電子カルテの導入など地域の拠点病院としての機能拡充に尽力されるとともに、中高校生の医療体験や医学生の実習受入れを積極的に実施され、将来の医療従事者の誕生に向け大きな力を注がれました。

(5) 院内保育所（愛称：奥出雲おろちキッズ）の開所

看護師をはじめとした医療従事者確保については、子育て支援等の労働環境の整備が大きく影響するため、近隣病院でも院内保育所の整備が徐々に進んでいる状況にあります。当院においても、院内保育所開所の必要性を探るため数年前より女性職員を対象にアンケート調査を継続実施してきましたが、ここ数年、出産・子育て世代の職員が増えるにつれ、保育所設置のニーズが高まり、さらには、育休復帰が困難であることを理由に離職が見込まれるケースが数件みられるようになったため、いよいよ保育所の設置に踏み切ったところです。現在のところ、約10名ほどの利用者があり、利用者からは、「この院内保育所があるおかげで、仕事が続けられる」とか、「早めに育休復帰して働ける」「近くに子どもがいると思うと安心して仕事ができる」などと良い感想が聞かれており、職員を大事にする姿勢を持った医療機関として人材確保の観点からも対外的に大きくアピールできていることは勿論、仕事に対するモチベーション向上といった喜ばしい好影響も生まれています。

(6) 喫緊の課題

慢性的な医療従事者不足と職員の世代層格差是正のため8名の職員増を得て24年度をスタートしました。その結果、看護基準10:1を堅持しながらも、スムーズな入院受入れが出来る看護体制がほぼ出来上がり、入院患者数・入院収益ともに増加をみましたが、他方、職員増を主要因として増嵩する給与費を賄うまでには至らない結果となりました。その他、移転新築から13年余りを経過し、空調設備等の大型修繕が突発的に散見されるようになったため修繕費の増加も生じ、これらより本年度は赤字決算となりました。25年度へ向けては、稼働目標を詳細明確化し、それを厳格に管理していくことを通じて

収益のアップを目指します。

喫緊の課題ですが、医療が高度化かつ専門化・機能分化するに伴い医療・病院連携・医療の安全等、それぞれの分野の専門知識を持った医療従事者の厚い配置が求められる今日の医療制度においては、医療従事者確保の問題がその筆頭であると言えます。医師については、平成22年度には5名に落ち込んだ常勤医数も24年度末には8名となっておりますが、平均年齢は高く、今後も全町一体となって継続した医師確保対策にご支援をいただきたいと思います。看護師等については当院の奨学金貸与制度も上手く機能しており、25年度～27年度は随時入職が見込まれており、今後も退職者補充を考慮にいたしたこの取組みの継続が必要であると考えております。

今後とも、住民の皆様が求められる医療・介護を提供し、末永く皆様の健康と生命をお守りできるよう一層の努力研鑽をしていきたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

2. 評価一覧

項目	取組・目標	実績・状況	評価・課題
1. 経営の効率化	(1)増収対策		慢性的な医療従事者不足と職員の世代層格差は正のため年度当初8名の職員増を得た効果もあり、入院患者数は対前年比4.4ポイントアップ。病床利用率も80.3%であった。また、化学療法や手術の充実等により各診療科の患者単価は増加傾向にある。現職員の年齢を考慮すると収益と直結する、医師・看護師等医療スタッフ確保は引き続き喫緊かつ最大の課題であり、今後も一層の対策を強化する必要がある。
	①診療単価と病床利用率のアップを目指す	・各診療科毎の稼働目標作成を実施した。実績評価を定期的に変更した。	
	②看護基準10:1の堅持	・人員増と効率的な看護職員配置に留意し基準10:1堅持。	
	③検診・ドックの充実	・スタッフ確保困難であるも例年並み。増収に向けた対策検討中。	
	④過年度未収金の回収	・新たな未収金の発生を防ぐ対策を強化している。	
	⑤地域に開かれた病院づくり	・病院祭継続開催。病院HP更新頻回実施。	
	⑥病診連携の充実	・地域医療研修会継続開催。	
	(2)経費節減対策		各種経費の節減対策は順調であると認識しており、すでに大幅な節減は難しい所まで進んでいる。一方、病院移転新築から10年余りが経過し、施設の大規模修繕箇所が見られ、むしろ今後は経費増の方向へ向かうと推測される。また、人件費に関しては、増収と表裏一体の関係にあり判断が難しいが、適正化及び収益との費用対効果に十分配慮することが必要である。
	①人件費の抑制	・人事考課を継続実施。	
	②材料費節減	・診療材料検討委員会を中心に節減対策継続。	
	③委託料見直し	・委託料及び委託業務の見直し継続実施。	
	④光熱費の節減	・灯油毎月見積入札等節減対策継続。	
	⑤消耗品・日用品の購入抑制	・破損、修理、購入等稟議厳格化により経費節減意識の更なる定着達成。	
	(3)その他の事項		患者様に対するサービス向上について、満足度調査・意見箱の結果を最大活用すること。また、24年度は外来待ち時間調査を実施されたので、この貴重なデータも活用すること。働きやすい環境づくりは医療従事者確保及び離職防止に直結するので引き続き配慮すること。また、院内保育施設の運営に関しては、入所児の安全を第一とするとともに、利用者の利便性に配慮し円滑な運営を図ること。
①サービス向上について	・外来待ち時間調査実施。患者満足度調査継続実施。病院HP充実。		
②民間的経営手法の研究	・栄養科調理部門外部委託検討継続。検査委託項目検討実施。		
③一般会計繰出金について	・繰出基準の厳守を継続。過疎債ソフト事業を活用した医師確保対策等支援継続。		
④職員の福利厚生について	・職員のメンタルヘルス対策を継続実施。医療従事者の離職防止と働きやすい環境づくりに配慮。H24.8開設した院内保育施設の安全な運営を心掛けた。		
2. 経営形態の見直し	①H20.5最終検討会にて見直ししないことを確認。	-	療養病床の形態については、国の方針転換もあり、不透明な情勢が続いている。動向について注視すること。
	②療養病床の形態検討	・経営委員会を中心に情報収集継続中。	
3. 再編・ネットワーク化	①再編については、島根県保健医療計画及び公立病院の再編ネットワーク化についての検討をふまえて、雲南地域医療関係者連絡会にて実施しない旨確認済み。	-	高次病院との連携については、医療機能により当院側からも依存する部分が多くある。各職種レベルでの情報共有及び連絡を密にし、更なる円滑な協力体制の構築に向け引き続き努めること。またドクターヘリ等の救命手段を最大限有効活用すること。
	②4疾病5事業について島根県保健医療計画により、医療機能の分担と連携を推進する。	・情報提供及び医療機能の分担に基づく紹介逆紹介等について他院との連携をすすめた。	

3. 数値目標の達成状況

(単位千円：税込)

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度			目標達成	備考
	実績	実績	実績	実績	目標(A)	実績(B)	B/A*100(%)		
医業収益									
小計	1,622,469	1,567,992	1,498,612	1,534,835	1,535,819	1,572,813	102.4%	○	
入院収益	1,144,662	1,105,254	1,023,232	1,039,765	1,039,002	1,095,519	105.4%	○	入院患者数対前年比4.4ポイントアップ
外来収益	326,037	272,517	257,286	261,670	263,278	267,642	101.7%	○	患者数対前年比0.4ポイントアップするも目標達成
その他	151,770	190,221	218,094	233,400	233,539	209,652	89.8%		地域医療再生計画補助金等
医業費用									
小計	1,803,623	1,758,580	1,683,609	1,770,676	1,773,808	1,916,898	108.1%		
給与費	1,077,236	1,061,823	1,023,646	1,083,432	1,085,599	1,173,789	108.1%		全職種合計8名増員(4月1日)
材料費	255,528	214,381	195,229	223,359	223,806	239,643	107.1%		患者数増による
経費	229,560	235,082	230,501	229,358	229,818	263,557	114.7%		ボイラー・ボール及び管球交換による修繕費増
減価償却費	236,903	243,405	227,876	228,926	229,031	234,083	102.2%		
その他	4,396	3,889	6,357	5,601	5,554	5,826	104.9%		
医業損益	-181,154	-190,588	-184,997	-235,841	-237,989	-344,085	144.6%		
医業外収益 (町補助金等)	281,902	297,029	314,191	315,107	307,699	337,982	109.8%	○	一般会計負担金・補助金増
医業外費用 (企業債利息等)	107,777	105,746	126,568	101,501	97,399	85,666	88.0%	○	前年度(23年度)医師住宅大規模修繕実施
経常損益	-7,029	695	2,626	-22,235	-27,689	-91,769	331.4%		
特別利益	0	0	0	0	0	0	-		
特別損失	0	0	0	17,117	0	0	-		
収入合計	1,904,371	1,865,021	1,812,803	1,849,942	1,843,518	1,910,795	103.6%	○	一般病棟入院収益の増 他
支出合計	1,911,400	1,864,326	1,810,177	1,889,294	1,871,207	2,002,564	107.0%		人員増による給与費増 他
減価償却前純利益	229,874	244,100	230,502	189,574	201,342	142,314	70.7%		
純損益	-7,029	695	2,626	-39,352	-27,689	-91,769	331.4%		
累積欠損金	-1,435,673	-1,434,978	-1,432,352	-1,471,704	-1,499,393	-1,563,473	104.3%		
経常収支比率	99.6%	100.0%	100.1%	97.9%	98.5%	95.4%	96.9%		
職員給与費対医業収益比率	66.4%	67.7%	68.3%	70.6%	70.7%	74.6%	105.6%		